

公益財団法人かすがい市民文化財団広報誌

FORUM PRESS

春日井の“毎日”を、もっと楽しく！



Contents

文化や芸術の情報をお届け！

2022.4-6月

- ◆暮らし方・生き方 人生のエンターテイナー・93歳 セツさんからの学び
- ◆かすがい市民文化財団のあんなこと こんなこと

VOL. 106

FORUM PRESSは
みんなの笑顔が
あふれる広場
のような広報誌を目指します。

01 特集 暮らし方・生き方 人生のエンターテイナー・93歳 セツさんからの学び

取材・テキスト=三宅 有

04 特集 かすがい市民文化財団の あんなことこんなこと

取材・テキスト=三宅 有、山川 愛

10 プロデューサー小松淳子のこのマンガを読め!! 図書館や司書が登場する作品を紹介!

11 聴き書き自分史“もの”語り 大切なもの、教えてください。

鈴木淳子さんのアジア旅行で撮影したもの

取材・テキスト=芳賀倫子(日本自分史センター相談員)
語り手=鈴木淳子(日本画家)

12 みんなのひろば 06

ファブリックステンシルPocket代表 鈴木幸枝さん

13 わたしのアトリエ

第70回記念春日井市民美術展覧会の作品紹介
彫塑工芸部門 財団理事長賞 伊藤克己さん

14 公演レポート

反田恭平プロデュース Japan National Orchestra 2022 Tours

市民レポーターが公演の様子をレポート!
担当スタッフが語る“よもやまばなし”も。

15 インフォメーション

16 あのひと、春日井と

加藤日向 / 春日井市短詩型文学祭
一般詩部門 市長賞受賞者

春日井に何かしら縁のあるアーティストを紹介しています。
取材・テキスト=三宅 有

暮らし方・生き方 人生のエンターテイナー!・93歳 セツさんからの学び

暮らし方・生き方



撮影=佐伯慎亮



昭和4年生まれ、
90歳から新聞ちぎり絵をはじめた
木村セツさん。
孫の いこさんがTwitterで作品を紹介すると
大きな反響を呼び、現在、
フォロワー数は6万5千人以上。
ちぎり絵を勧め、
創作活動を見守る娘の幸子さんや
セツさんの人生にスポットを当てた
作品集の編集者・清田さんなど、
セツさんは周りの人たちとの“縁”のなかで
毎日ちぎり絵を作り続けています。

今号の表紙



[モデル]
加藤日向

[撮影]
藤井昌美/写真家



木村セツ きむら せつ
1929年、奈良県桜井市生まれ。紡績工場、銀行などに勤める。家庭の事情で退職後は、3人の子どもを育てながら養鶏、喫茶店、農業などの仕事に励む。作品集「90歳セツの新聞ちぎり絵」「91歳セツの新聞ちぎり絵ポストカードブック」(いずれも里山社)、2022年3月には、孫のいこさんとのコラボ絵本「おてがみであいましょう」(理論社)を出版。



編集者・清田さんが セツさんの本を作ったワケ

2019年頃、SNSでセツさんの作品を見たことがきっかけでした。直接お会いすると、何よりセツさんのお話が面白い。作品のこと、住んでいる奈良の昔の様子や言い伝えなど、まるで娘や孫に話すように教えてくださいました。

ようと考えました。また、私の母の意見も参考にしました。女性には外で働くよりも家庭に入る人が多かった時代、自分の可能性を試せなかった方々は多い。だから、若い層のみならず、60代以上の方々にも響く本を作ろうと思いました。

セツさんの素直さや柔軟さが、作品をより魅力的にしているとも感じました。グラフィックデザイナーで娘の幸子さんが「こうしたらええんちゃう」と声をかけると、「ほうか」と受け入れる。漫画家でイラストレーターの孫のいこさんに、下絵も自分で描くことを勧められれば、描いてみる。お二人のアドバイスを取り入れて、ちぎり絵がどんどん進化していきます。

そこで、本の装丁をお願いしたデザイナーのアドバイスもあり、セツさんの人生や生活をたどる、個人史を交えた作品集にし

また、いま大変な出来事が日々起こり、暗いニュースも多く、気持ちが沈んでしまっています。もちろん、向き合っていかなければなりません。目まぐるしい変化のなかでも、私自身がセツさんの変わらなさや培われた強さに、はっとさせられたり、ほっとしたり。小さい頃、おばあちゃんの家で感じたやすらぎみたいなものを覚えました。そんな生命力の強さを伝えられたら嬉しく思います。そして、いくつになっても秘めているものが花開くということは、多くの方の希望になるのではないのでしょうか。

清田さんのインタビュー記事▶



セツさん曰く
「ちょっとしたことになりましただわ
えらいことになりましたわ」

娘や孫、編集者の清田さん、周りの人のおかげです。最初は「ようせんわ」って思ってしまったが、やってみると面白い。今は、「元氣になりました」「私も作ってみたいです」など、SNSに寄せてくれるコメントが励みですし、宝物。自信がきました。ちぎり絵を作るのは、一日に6〜7時間です。集中すると夜中の12時頃までかかってしまう時があります。周りの声も入らんようになってしまってます。娘が体調のことを気遣ってくれるので、お風呂で手足を伸ばす運動をしたり、三日に一回は買い物で外へ出るようにしています。神様仏様に感謝して、拜むことも欠かしません。

私、反抗すること、他人様に迷惑かけることが嫌いで、人に言われたことは、まず聞いて、納得したらやってみるようになっています。私みたいなもんが、90歳でこんなこと、本当に恐縮です。いまが一番頂上ちやうかな。原画展でみなさんに会えるのが楽しみです。

娘・幸子さんから見た、セツさん
生き生きと、楽しそうにちぎり絵を作る姿が嬉しいですね
本を作りませんか？と、お声がけいただいた時は「信じられない」が第一声でした。



母はとにかく働き者で、バイタリティがすごい。家族旅行から帰って疲れているはずなのに、みんなにお茶を出したりするんですよ。真似できませんよね。そんな母が、父を亡くしてしょんぼりしていたので、ちぎり絵を勧めました。仕事や家事ばかりで、絵を描いている母を見たことはなかったのですが、手先を使うのは好きなようでした。

作り始めて約三年。声をかける時は、やる気を起こすような肯定的なアドバイスを心がけていますが、「いいものを作りたい」「わずかでも成長しよう」とするモチベーションは崩さず、やる気満々。日常生活でも、私たちと同じように何でも食べますし、膳こしらえもしてくれます。これからも、母とはよい距離感で、見守っていかれたらと思っています。



展覧会情報
2022.4.28(木)～5.22(日)
木村セツ
「93歳セツの新聞ちぎり絵 原画展」
@文化フォーラム春日井・ギャラリー 協力=里山社 後援=中日新聞社
[入場料] 一般 ¥300 / 高校生以下無料 / 障がい者・介護者(付添人)無料
公演詳細はコチラ



あんなこと こんなこと。

ANNA KONNA KOTO!

かすがい市民文化財団では
多彩な公演や展覧会を開いたり
文化フォーラム春日井や
春日井市民会館の
管理・運営をしています。
そのほかにも、
みなさんに文化芸術に
親しんでもらおうと
様々な事業を展開しています。
その中から、新たな取り組みや
ユニークな事業を紹介します。



スクール・アート・ドア

アーティストが教室に

「うまく弾くコツは？」「上手になるまで、
何時間練習しましたか？」など、次々と子ど
もたちから質問が。2月某日、牛山小学校
の音楽の授業の1コマです。この日の先生は、
名フィル第2ヴァイオリン首席奏者の瀬木理
央さんとピアノの金澤みなつさん。一人
ひとりと目を合わせ、手を伸ばせば触れられ
る距離で演奏して、曲の構成を解説しました。
スクール・アート・ドアでは、音楽や美術
の教科書に沿った通常授業をアーティストが
受け持ちます。市内の全小中学校をめぐるこ
とを目指しています。



スクール・アート・ドア

「私たちが目をつむっていても弾けるようになるま
で、何度も練習します」。プロからの直接のアド
バイスに子どもたちは目を輝かせ、真剣に耳を傾
けます

みんなの美術部・番外編

プレミアムな遠足

10代から70代の幅広い世代が、多彩な創作
活動に取り組む「みんなの美術部」。春と秋に
は、遠足に繰り出すことも。この春は、長久
手市にあるトヨタ博物館へ。トヨタ自動車
OBのカーデザイナー・木村徹先生を特別講
師にお迎えし、プリウス製作時のエピソード
など、プロフェッショナルならではの、貴重
なお話を聞くことができました。
過去には、粘土作りから始めて作陶するな
ど、特別な体験ができる遠足です。しおり
もあって、気分を盛り上げてくれます。

学生の特券

プラチナチケットもワンコインで

「最初の1音で震えました」と、興奮冷めや
らぬ様子で話してくれた早川香澄さん・樹奈さ
ん姉妹。小中高生が、ワンコインで公演や展
覧会を楽しめる「学生の特券」は、過去にも何
度か利用したことがあるそうです。今回は、シヨ
パン国際コンクール2位の反田恭平さん出演
のコンサートを鑑賞。「練習したCDとは、
迫力もニュアンスも違いました。楽しそうに体
を動かして演奏するのも、響きに影響するの
かな?」と思って聴いていました」と、目でも耳
でも生演奏を満喫しました。

アーティスト写真撮影

新たな魅力を引き出して

公演のチラシやポスターに使われるアー
ティスト写真ですが、なかには、撮影からず
いぶん時間が経ってしまったり、証明写真の
ように表情の硬いものもあります。若手音楽
家支援事業登録アーティストでピアニストの
蒔田裕也さんも、「自分たちで撮った」写真を
使用していました。
アーティスト写真には、その演奏者の持つ
音楽性や雰囲気など、形にならないものをイ
メージしやすくする役割もあります。撮影現
場では、自身が気づいていない魅力を伝える、
見せ方も提案します。



みんなの美術部・番外編

「どうしてデザイナーになったんですか?」「作った
車で思い出のあるのは?」など、次々と質問が。
“その道のプロ”の答えにも熱がこもります



学生の特券

親子ペアでの利用も多い「学生の特券」。早川さん
姉妹は「あの反田さんの生演奏を、2人で1,000円
で聴けるなんてラッキー!!」



アーティスト写真撮影

「自分たちが周りにどう見えているのか、客観的な
目線のアドバイスは、とても参考になります。今後の
活動に生かしたい」と、蒔田さん



第19回 春日井市掌編自分史作品集
「かおりのきおく」
編集・発刊：
公益財団法人かすがい市民文化財団
発行：2022年3月
定価：1,000円（税込）
取扱：文化フォーラム春日井
文化情報プラザ
TSUTAYA高蔵寺店

私の好きな「一篇」

第19回 春日井市
掌編自分史作品集
「かおりのきおく」
に掲載された
35篇の自分史。
書き手それぞれの
味わい深い個性が
溢れる作品の中から
「私の一押し」を
選んでもらいました
イラスト：小島邦康

磐田市香りの博物館 落合秀俊さん

「コーヒーは時間をかけて！」

河村多恵子さん著（東京都）

香りで記憶を呼び覚まされる現象のことを「プルースト効果」と呼びます。フランスの小説家プルーストの『失われた時をもとめて』の中で、紅茶に浸したプチマドレーヌの味と香りで、過去を想起する描写からなぞらえているのです。

今回、コーヒーにまつわる自分史が4編ありました。中でも印象的だったのは“コーヒーは時間をかけて!”に出てくる、亡きお父様の「コーヒー飲みたい人、手を挙げて」という振る舞い。手を掛けたコーヒーで楽しむ幸せの時間を、皆で分かち合おうとする家族愛が香りと共に伝わってきます。

私自身も、コーヒーの香りや味が楽しめるということ自体が、健康のバロメーターになっています。リラックスさせてくれるコーヒーに感謝して、毎日を過ごしましょう。



フリーアナウンサー 深谷里奈さん

「ラストノート」

上平琴絵さん著（広島県）

母は強い! 使い古された形容詞だけど、母である私もそうありたいと願っています。

“ラストノート”には、すっかり大きくなった息子を気遣い、心配のあまりに自分の寿命を差し出そうとする母が登場します。生まれたときは元気なら十分。そう思っていたのに、何とたくさんの期待をしていることか。私自身、不安が起きた時に「大丈夫!」と強く言い切れる母でいられるだろうか? 生放送の現場では災害が起ころうと冷静さを保つ必要があるけれど、その気概を家族の中でも保てるだろうか? そんなことを自身に重ねながら読みました。

“ラストノート”の母は息子に「大丈夫よ! 大丈夫!」と二回言います。「頑張れ」「負けるな」。どれもいい言葉だけど、私も「大丈夫」って言いたい。強がり…でも大丈夫!



俳優・演出家 有門正太郎さん

「涙の『ミツコ』」

阪井真佐子さん著（愛知県）

匂いってタイムカプセルですね。フラッシュバックのように過去を引きずりだします。肉体は賞味期限があるけれど、生きていた時の言葉や思いは受け継がれる、そんなことを感じさせた一篇が“涙の『ミツコ』”です。

ミツコという香水にまつわる、先輩男性教師と私のお話。「その匂いって、『ミツコ』じゃない?」って気づかれた時、私はすごく嬉しかったんでしょう。「ミツコ」という呼称もいいです。

最終的には先輩教師が校長先生になり、ギリギリ交わした会話の後に亡くなってしまいますが、このエピソードを書き、掌編自分史に掲載されたことで、校長先生は生き続ける。最高のプレゼントですよ。

演出家としては、最後の一段落が妙に想像を掻き立てました。ここをどう読むかで、演技が相当変わります!



写真家 浅田政志さん

「カレイなる香り」

室市雅則さん著（神奈川県）

タイトルにユーモアがあって、文章の始まりが唐突。40年近く前、父が釣ってきたカレイを母が揚げた「カレイの唐揚げ」の話だと、誰が思うでしょうか。そのあたり「第三者に読ませたくて書いたんだな」と感じました。

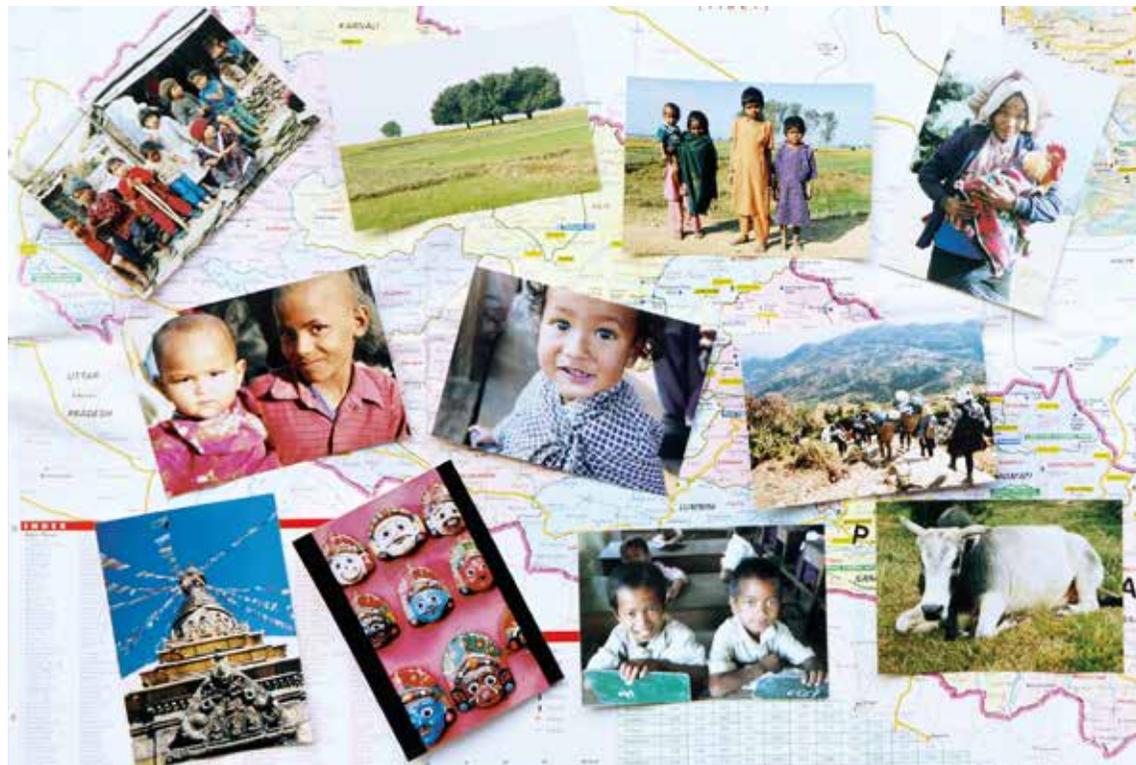
僕が撮っている家族写真も、そもそも他人に見せるものではない存在。自分史も同様でしょう。でも、名も無き人の人生を、自分のためではなく、過大評価もなく、誰かに伝えたいという軽やかさを心地よく感じました。

書き手の年齢が僕自身に近いこともポイントです。自分史は人生終盤の方が書くイメージがありましたが、30代後半の方が、こんなに楽しく自分史を書けるんですね。ただ振り返るだけでなく、今の自分に置き換えてみると“新しい過去”が発見できるかもしれません。



“もの”語り

#06



アジア旅行の撮影日記

取材・テキスト
芳賀 倫子 (日本自分史センター相談員)

語り手
鈴木 淳子 (日本画家)

聴き書き自分史とは？

語り手の話に耳を傾け、本人に代わって書く自分史です。

芳賀先生の自分史相談

無料 要予約

毎週火曜日 13:00~17:00
文化フォーラム春日井にて



二十歳の頃から、よく海外旅行に行った。中でもネパールは印象的だった。道端に亡くなった人が放置されている光景は衝撃的だったが、豊かとはいえない暮らしの中でも、人々は力強く前向きに生きていて、子どもたちの目はキラキラと輝いていた。後に、自分が美術講師として教育現場に立った際、どうしたら生徒がやる気を出せるか模索する日々、好奇心にあふれた子どもたちの瞳を浮かべていた。

また、カンボジア・アンコールワット近郊の湖上小学校に文房具などを届けた際には、過酷な暮らしの中でも明るく生きる人々に出会い、「何事も何とかなる」と思えるようになった。世の中に発信されているものに振り回されることなく、自分の感じたことを信じて生きてゆくことが大切だと思えたのだ。

これらの経験が“まずは何でもやってみる”という私の原点になった。特に、生きる知恵をもつモンゴル人の夫と結婚してからその傾向は一段と強くなったようだ。それは、私の描く「絵」にも表われ、「余白」として滲み出ていたら嬉しく思う。

鈴木淳子さんが講師! みんなの美術部 前期

「デッサンに挑戦して、“みる力”を磨こう!」

2022.6.12(日)19(日)

詳しくはコチラ



このマンガを 読め!!

KONO MANGA WO YOME!!
BY KOMATSU P



今号のテーマは
「図書館」

図書館や司書が登場する
作品をご紹介します。

税金で買った本

図書は市民の財産
今までに図書館を題材にした漫画は何冊か出ていますが、このある意味、身も蓋もないストレートなタイトルが示すとおり、図書館業務に踏み込んだリアルなお仕事漫画となっています。この漫画を紹介するにあたり、春日井市図書館職員の方に「実際どう?」と取材をしました。漫画で描かれた図書館とは貸出しに関する決まりが異なっているところもありますが、困った事例としての「破れた本にセロテープ」や「本についた臭い」は共通する問題だそうです。漫画のストーリーリはヤンキーの石平くんが図書館でアルバイトをして業務を知っていく、というもの。寄贈本の対応や「読み聞かせ」など、貸出しだけではない司書の仕事を知ることができ、図書館を利用してみようという気持ちになりますよ。



©原作=ずいの
漫画=系山岡/講談社

KONO MANGA WO YOME!!

銀河のカーテンコール



© 北駒生/講談社

人生の新たな幕が開く
婚約者と別れた図書館司書の合歡木真と現役を引退したばかりの庭師・松浪誠二郎。意気投合した歳の差40歳の二人は、交わす会話からそれぞれが進むべき道を見出してゆきます。花や木だけでなく、人物の些細な表情も緻密に描かれた線と、主人公たちが語る言葉の数々はどれも含蓄に富む上に、更に練られた物語：この丁寧な仕事ぶりは「職人技」と呼ばせていただきます! まるでNHK BSで放映される夜のドラマのような雰囲気となっています(個人的にはいずれドラマ化されるのではないかと思いますが...)。真が書いた「幸福な王子」の続きの物語が、これもまた美しく、大人の方には是非手に取ってほしい作品です。



タイトル 挑戦

「純粹に作る事が好きで、空いた時間を工夫して、部屋の机の上で創作します」という伊藤さん。「自分の世界を広げるために、作品を見てもらう機会は大切」と初出展し、受賞。「思ってもみないことでしたが、多くの方に感想やアドバイスをいただけて、今後の作品に生かしたい」と意気込みます。専門的に美術を学んだことはないそうですが、ホームセンターで買った木材を電動糸ノコや彫刻刀で形作り、細部はヤスリで仕上げます。昆虫を作るのは、「自然の造形美が、独学ゆえのクセや拙さを隠してくれるのでは」と思うから。「挑戦」は、2番目に気に入っている作品。「芸術に完成はないと思っているので、1番は常にブラッシュアップできるよう手元に置いてあります」と、さらなる高みに挑戦しています。すでに、今年、来年の出品作も決まっているようです。

お知らせ

第71回春日井市民美術展覧会作品募集

出品申込み期間 2022.7.2(土) 9:00~15(金) 18:00 必着

インターネットの応募フォームからもご応募いただけます。



わたしの
アトリエ

第70回記念春日井市民美術展覧会の作品紹介



伊藤克己

昨年、市民展の彫塑工芸部門で財団理事長賞を受賞。自営業のかたわら、創作に取り組む。春日井市在住。

文化フォーラム春日井や春日井市民会館は、春日井の文化をつむぐ「みんなのひろば」です。そんな「みんなのひろば」に集う人々を紹介します!

「世界に一つだけのおしゃれを /

ファブリックステンシルPocket代表

鈴木幸枝さん



SUZUKI
YUKIE

ENJOY! FORUM

みんなの ひろば 06

絵心はなくても、遊び心があれば、楽しめる

服やカバン、靴などに、専用の絵の具でイラストや模様を描くファブリックステンシル教室 Pocket。40代から80代までの16人が活動しています。「型紙があるので、初めての人も、作る楽しさと身に着ける喜びの両方を味わえるのが魅力」と鈴木さん。「同じ型紙でも、シックな風合いに仕上げたり、鮮やかに染めるなど個性が出ます。刺しゅうやビーズで飾ると、さらに独創性が広がります」

教室を始めたのは、2010年。数年前まで、市内の中学校でも体験教室を開いていましたが、コロナ禍で中断。「ユニークな発想と、できた時の笑顔は忘れられない。早く子どもたちに会える日が来ますように」と再会を心待ちにしています。「姪っ子の結婚式に、自分で染めたドレスで参列したとき、『おばさん、素敵!』と喜んでもらって、祝福の気持ちを伝えられた」ことを嬉しく思った鈴木さん。「これからも、人生の一幕を彩る作品を、みなさんと作っていきたい」と願っています。



お気に入りの服やカバンに、好きな絵や模様を乗せて魅力UP!



文化フォーラム春日井・ギャラリー

ファブリックステンシル Pocket作品展

@文化フォーラム春日井・ギャラリー 1/3利用

2022年6月14日(火)~19日(日) 10:00~17:00
(最終日は16:00まで)

可動壁で自在に分割できます

Pocketは、ギャラリーを3分割し、小規模展示に対応したスペースで作品展を開きます。総面積は約100㎡。天井高(5m)や照明演出などの機能は通常のまま、目的や規模にあった展示空間をつくれます。



鈴木さんからの

お知らせ



月夜のファウスト

コロナ禍で舞台活動が止まった2020年5月に生まれた、究極にシンプルな演劇の原点。実在した錬金術師・ファウスト博士の伝記をもとに、俳優・演出家で、舞台やテレビなどでも活躍する串田和美が贈る小さくて壮大な物語です。

2022.5.22(日) 14:00~
@文化フォーラム春日井・視聴覚ホール



6.11出演! クローバー・トリオ

昼コン&夜コン開催します!

様々なジャンルの音楽を気軽に楽しんでいただける入場無料のコンサートです。毎回、出演アーティストが変わりますので、当財団のHPからご確認ください。会場は文化フォーラム春日井・交流アトリウムです。

【昼コン】2022.5.7(土) 14:00~
2022.6.11(土) 14:00~
【夜コン】2022.5.27(金) 19:00~
2022.6.24(金) 19:00~



©松竹

令和四年度 松竹歌舞伎舞踊公演

中村芝翫と息子橋之助・福之助・歌之助の三兄弟、中村松江が出演。親子の獅子による勇壮な毛振りがある歌舞伎の人気舞踊「連獅子」、糸操り人形に扮して舞う「操り三番叟」など、見どころ多い舞踊公演です。

2022.7.13(水) 13:30~
@春日井市民会館



夏井いつき句会ライブ

魔法のようなコツを知れば、5分で一句できあがり。俳句にまつわるお話を織り込みながら、楽しいひとときをお届けします。

2022.7.10(日) 14:00~
@春日井市民会館
【チケット先行予約】
PiPi会員 5.14(土)9:00~
一般web会員 5.18(水)10:00~
【一般発売】5.21(土)~



あなたの言葉を作品にしてみませんか?

短歌ワークショップ
春日井歌会

5・7・5・7・7の31音の中に、様々な想いを込めることができる短歌。春日井市出身の若手歌人・鈴掛真さんが、初心者にもわかりやすく解説してくれるワークショップです。

2022.6.18(土) 14:00~16:30
@文化フォーラム春日井・会議室
【申込】6.7(火)までにメールで。



清田麻衣子さん 西川千雅さん 深谷里奈さん

トークイベント「自分史を聴こう」

「書く」というイメージが強い自分史ですが、まずは「聴く」ことから触れてみませんか? オンラインでも実施予定です。詳しくはHPで。

2022.5.11(水) 19:00~20:30
“ひとり出版社が取り組む、個人史へのアプローチ”
里山社 代表・清田麻衣子さん
2022.7.1(金) 19:00~20:30
“家元に生まれて”
日本舞踊西川流四世家元・西川千雅さん
×フリーアナウンサー深谷里奈さん

読者アンケート

今回の「広報誌FORUM PRESS」はいかがでしたか? 感想やご意見をお寄せください。回答はQRコードから。抽選でプレゼントもお届けします。回答の締め切り:2022.5.31(火)



今回のプレゼント

夏井いつき句会ライブ(7/10(日)14:00~@春日井市民会館)のチケットを2組4名様にプレゼントします!プレゼント不要の方も、ご回答いただけるようになっております。

編集後記

93歳の木村セツさん。朗々とした口調、心地いいテンポで会話されます。そのうえ、答えが的確。元気の秘訣は「何でも食べる」「おっくうがらずに外へ出る」。そして、「感謝の心」と話してくれました。“人生の達人”はサラッと云われますが、做うのは容易ではないです。(三宅)

公演レポート

反田恭平プロデュース
Japan National
Orchestra
2022 Tours

2022年3月20日(日)
@春日井市民会館



今回の担当レポーター
神戸菜々美

忘れられない音

シヨパン国際ピアノコンクール2位に輝いた、反田恭平さん率いるオーケストラのコンサートが春日井市民会館で開催されました。まずは、メンデルスゾーン作曲ヴァイオリン協奏曲、ミュンヘン国際音楽コンクール1位の岡本誠司さんの演奏で会場を暖かく包み込みます。哀愁漂う切ないメロディーが心の中まで流れ込んできました。後半は、反田さんがコンクールのファイナルで演奏したシヨパン作曲ピアノ協奏曲第1番。弾き振りということで配置が珍しく、客席に背中を向けての演奏でした。反田さんが投げかける細やかなニュアンスにオーケストラが完璧に呼応し、素晴らしいアンサンブルでした。そして、驚いたのは、反田さんの音色です。まるで氷の結晶が降り注いでいるような、キラキラとした音色でした。特に2楽章は天国にいるかのようでした。最後の一音を奏でると、満場の拍手が鳴り止みません。私が聴いた氷の結晶の音はまだまだ、溶けなそうです。

市民レポーターが
かすがい市民文化財団の
アレコレを紹介!

REPORT NUMBER 439



他のレポートは
コチラ!

反田恭平プロデュース
JNO 2022 ツアー担当

西野裕之
にしひろゆき



担当スタッフの
よもやま
ばなし

スタッフは、ついつい反田さんの公演と呼びがちですが、当日の演奏に接したら、これは「JNOの公演」だと認識を改めました。反田さんは、メンバーと同じバスで移動し、同じように近所の食べ物屋に出かけ、自分は特別という振る舞いは一切無し。舞台でも、自分ひとり脚光を浴びるのではなく、音楽家として互いに認め合える仲間たちと一体化した、活みなぎる演奏を展開。終演後の観客総立ちの熱狂に、音楽のパワーを再認識しました。



ひとつの言葉から
空想する時間が楽しい

あの人と、
春日井と

加藤日向 春日井市短詩型文学祭 一般詩部門 市長賞受賞者

いいな、と思う言葉を
ノートに書き留めて

第41回春日井市短詩型文学祭
一般詩部門で最高位の市長賞を
受賞した、当時高校3年生だった
加藤日向さん。「詩を作るときは、
まず、使いたい言葉があって、そ
こからイメージを膨らませます」。
本や歌詞、周囲の会話からも、気
になる言葉があるとノートに書き
留める。例えば、「アンニユイ」。
響きや語感に惹かれました。そこ
から、いろんなストーリーを考え
ることが楽しくて」

小さな頃から、ジャンルにこだわ
らず本を読んだ。高校生になると、
下校途中、春日井市図書館によく
立ち寄った。これまでに最も影響
を受けたのは、小学校低学年の頃
に読んだ、ミヒヤエル・エンデの『は
てしない物語』。無限に広がる想像
の世界に魅了された。「これは別
の物語、いつかまた、別のときは
なすことにしよう」と続くところ

が、大好き。主人公が自分で物語
を作っていく発想もいい。先の展開
を想像するだけで、ワクワクしま
す。いまま愛読書です」

国語の教科書から インスピレーション

言葉の奥深さを知ったのは、国
語の授業で知った俵万智さんの『サ
ラダ記念日』。「この味がいいね」
と君が言ったから七月六日はサラ
ダ記念日」のサラダが、実際は、
カレー味のトリの唐揚げだったとこ
ろに感動。言葉がひとつ違うだけ
で、まったく別の世界が広がるこ
とに心躍りました。最近では、「江
國香織さんのエッセー『やわらかな
レタス』もお気に入りに。言葉の使
い方、選び方が素敵。ふわっとし
た優しい表現が好きです」

友だちが大事、 それを詩に込める

加藤さんは、「丸くて柔らかい感
じがする」ひらがなで、詩や文章
を記す。同じ高校の演劇部で出会っ
た親友への思いを綴った受賞作
「Sogna (ソニア)」も、ひら
がなでしたためた。

『かのじよのころは
きがつかないうちに
すこしずつでも かくじつに
こわれていたのしょう』

という衝撃的な表現も、ひらがな
を使うことで、親友との距離感が
離れていないことを確認し、相手
を思いやる気持ちを昇華させた。
「友だちが好きなゲームを詩の中
にリンクさせたりして、自分のこと
を書いてくれたんだな」ってわかる
ようにしました。「一見するとマイナ
スイメージが強いかもしれませんが、
何があっても、友だちが大事」と
いう思いを込めました」



演劇部で 広がった世界

「人前でしゃべるのは得意じゃな
いけど、目立つのは好きなので、キャ
スト志望」で入部した演劇部。脚
本も、自分たちで制作した。「表
現する」となると、つい、こだわっ
てしまっ。小道具のチョコレート
を本物を使うか、偽物で代用する
かで、「もめた」こともありまし

高校最後の公演、出番直前。急
に言いしれない高揚感に包まれ、
「もっと演劇がしたいって気持ちがこ
み上げてきました」。その時、舞台
俳優を目指すことを決めた。「誰
もが心の中に感じているけど、うま
く伝えられない感情や心のひだを
体現したい」
言葉を大切にし、表現すること
の難しさと楽しさに心奪われた加
藤さん。この春からは、受賞作に
登場していた親友といっしょに大学
の国語科へ通う。

コラム

加藤日向と春日井と 「鶴亀堂春日井店」

テストが終わった時や部活帰
りに、演劇部の友だちとよく行きま
した。麺が伸びないように急いで
食べた後、次の舞台のことや進
路、恋愛の話など、時間を忘れて
話し込みました。
クリーミーな
スープと極細
麺が絡み合っ
た濃厚な味に
ハマります。



加藤日向
Kato Hinata

2003年生まれ、愛知県春日
井市出身。小学生の頃から、短詩型文学祭の詩部
門に出品。小・中学生の部
で平成27年度財団理事長
賞、29年度佳作、30年度秀
逸と、受賞歴がある。今年
1月の表彰式では、会場を
詩の世界観で包み込む朗
読を披露した。

お知らせ 2022.5.15(日)-9.4(日)
第42回 春日井市短詩型文学祭
作品募集 当日消印有効



インターネットの
応募フォームからご応募いただけます。

加藤さんの作品を掲載した作品集を
文化フォーラム春日井・文化情報プラザで
無料配布しています。
詩をモチーフにしたPR動画も公開予定。

チケット予約・購入

3つの方法が選べます

窓口

文化フォーラム春日井2階・文化情報プラザ
(休館日を除く、9:30~17:15)

春日井市東部市民センター2階・事務室
(12/29~1/3を除く、9:30~12:00、13:00~17:00)

電話

0568-85-6868 9:00~21:30

友の会PiPi専用

0568-85-6078 9:00~17:00

WEB

パソコンやスマホから、
かんたんアクセス

予約

www.kasugai-bunka.jp

にアクセス。

※事前のWeb会員登録(無料)が必要です。
※PiPi会員はIDとパスワードでログインできます。

支払

- 文化フォーラム春日井2階・文化情報プラザ
- 春日井市東部市民センター2階・事務室
- セブン-イレブン(※手数料あり)
- クレジットカード決済

発券

- 文化フォーラム春日井2階・文化情報プラザ
- 春日井市東部市民センター2階・事務室
- セブン-イレブン(※手数料あり)
- 配送(※手数料あり)

学生の特券

厳選された幅広いジャンルの公演や展覧会を、
小中高生に低価格で楽しんでいただけるサポ-
ト制度。詳細は文化財団のホームページへ。



文化フォーラム春日井 春日井市民会館

公益財団法人かすがい市民文化財団
TEL:0568-85-6868
〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町5-44

[休館日]
月曜日(祝休日の場合は翌平日)
12/29~1/3

[かすがい市民文化財団HP]
www.kasugai-bunka.jp



FOLLOW US

かすがい市民文化財団の公式アカウントです。

@kasugai_bunka

@477kdncp

ACCESS

交通のご案内

JR中央本線「春日井駅」北口より

- ・名鉄バス「鳥居松」下車すぐ
- ・徒歩20分
- ・無料レンタサイクル5分(日・祝休み)

かすがいシティバスでお越しの方

- ・「市役所」下車すぐ

駐車場は混雑が予想されます。
なるべく公共交通機関や
乗合せをご利用ください。



新型コロナウイルス感染症の感染状況によって
イベント内容が変更になる場合があります。
最新情報はかすがい市民文化財団のホームページでご確認ください。



公益財団法人
かすがい市民文化財団